



大熊猫
中村 久栄
東美会所属

ニュース、情報は下記へ
社 会 部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

半田支局 〒475-0903
半田市出口町1-45-18
0569-21-0021 Fax23-2372
中部空港支局 〒479-0881
常滑市セントレア1-1
0569-38-1310 Fax38-1311
東海通信局
0562-32-0240 Fax33-5065
大府通信局
0562-46-2668 Fax46-6833
常滑通信局
0569-35-2248 Fax36-0040
内海通信部
0569-62-0055 Fax64-0005

輸入増、企業誘致に期待

知多半島と西三河の間にあり、海上物流の拠点となる衣浦港。中央部に位置する、半田市十一号地の「中央ふ頭西地区」に新たな埋め立て地をつくる事業が本年度から始まった。船から揚げた国内外の物資の保管用地は慢性的な不足状態。埋め立てが完了すると、保管用地は13・5%増えるため、港の発展につながる」として関係者の期待は高まる。

(山野舞子)

えられないのが現状だ。と、中央ふ頭西地区の南前から老朽化した岸壁の埋め立てを。総事業費一部に修復の要望があり、今回、修復も兼ね、新たな用地創出のため埋め立てが決まった。県衣浦港務所による

港湾業者でつくる衣浦港運協会の浅野皇会長(五七)は「モノづくり愛知」を支える全国的にも重要な港。物流が増えれば港の発展につながる」と歓迎。要望を続けてきた堀崎純一県議は「企業の新事業展開が見込まれ、地元の雇用創出や税収の増加にもつながる。早期に実施してほしい」と期待する。

半田・衣浦港に埋め立て地整備

衣浦港で扱われるのが所有する保管用地七十は、火力発電用の石炭や 三万八千五百平方メートルは十製紙用の木材チップ、コ年ほど前から慢性的な不足が続いている。このため、輸入の取扱量を増やすことができない。

二、船から引き揚げられた物資は、県や企業が所有する用地に野積みされた後、トラックなどで順次工場へ運ばれる。

港の沿岸にはいくつかの頭が点在するが、県イオマス発電所を建設中で、二〇一七年から運転が始まる。



誘致に当たり県は、半田市に貸していたグラウンド用地を木材チップの保管用地(二万五千平方メートル)に転換して対応した。しかし今後、新たな企業進出の希望があっても



木材チップが山のように野積みになる保管用地。半田市十一号地で



衣浦港 半田市と武豊町、西三河の高浜市、碧南市の3市1町にまたがる港。1899(明治32)年の武豊港の開港が起源。1957(昭和32)年に3市1町に点在する港を統合、国の重要港湾に指定された。製品の原材料、燃料の輸入が主で2013年の取扱量は1900万ト。石炭はほぼ半分以上の1065万トで、中部電力碧南火力発電所(碧南市)で使用し、県内の半分の電力を賄う。